# 編集後記

◇ この第9巻第1号は「リスクガバナンスへ向けて」と題する甲斐倫明氏の巻頭言をいただき、６報の記事を収載して発行することができました。ご多忙の中、ご執筆下さった甲斐倫明氏に感謝申し上げます。甲斐氏には本年３月の当学会春季討論集会の開催にご参加いただき、様々な分野におけるリスクの考え方や評価の違いについて広範で有意義な討議を行うことができました。そして今回の巻頭言において甲斐氏が指摘しておられる「専門家だけでなく、ステークホルダーと呼ばれるすべての人々と共に関わっていくリスクガバナンスの時代になってきた」ことは、放射線の影響に限らず、化学物質の影響についても生物の影響についても共通する課題であり、すべての関係者が広く参加してリスク管理対策のあり方について論議する必要性がますます高まっています。

◇ 一方、結城命夫氏らの「化学物質総合管理に関する活動報告」は、2005 年度から 2011 年度までの７年間にわたる化学物質管理に係わる事業者や関連行政機関などの化学物質総合管理能力を調査した総括であり、それによると、政府機関の化学物質総合管理能力が民間部門に比べて低いことを明らかにしています。このような状況の下では、化学物質管理の分野については政府機関がリスクガバナンスを適切に先導することは覚束なく、何らかの抜本的な対策の必要性を示唆しています。（Ｙ．Ｈ.）